

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-09 □支援部門		戦傷病者戦没者遺族等援護事業				
主管課	生活福祉課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	戦没者の遺族に対する援護活動を通じて、戦没者追悼式など戦没者等への追悼の意を表するとともに、平和を祈念する。						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	754千円	873千円	868千円			
	(国・県)	108千円	96千円	79千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	646千円	777千円	789千円			
	人員配置数	0.4人	0.6人	0.8人			
	人件費(千円)	3,613千円	5,527千円	7,499千円			
事務事業運営経費	協働のパートナー	無	無	無			
	総事業費(千円)	4,367千円	6,400千円	8,367千円			
	市民1人当りの経費(円)	25円	36円	47円			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	対象者1人当りの経費(円)						
	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
		目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
戦傷病者戦没者遺族等援護事業	754千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	□A ■B □C □D □E
	事業の概要	戦没者のご冥福と恒久平和を祈念するため、戦没者追悼式を開催するとともに、戦没者等の遺族への特別弔慰金等の請求受付事務を行う。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	送迎バスの運行も含め、戦没者追悼式への高齢遺族の参加しやすい環境づくりについて、改善点の検証を引き続き行っていく必要がある。			
課題解決のための取組	戦没者追悼式開催にあたり、参加者の交通の利便性及び参加しやすい規模等に配慮し、鎌倉生涯学習センターを会場に選定した。			
未解決の課題	高齢化の進む戦没者遺族について、より参加しやすい環境づくりを検討していく必要がある。			
今後の方針	戦没者遺族のさらなる高齢化に対応できるよう、参加しやすい環境づくりを目指していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了 課長名 生活福祉課長 曾根 健治

個別事業の概要

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
戦傷病者戦没者 遺族等援護事業	10	戦没者追悼式参列者記念品	160	160	■適切 □見直し余地あり
		戦没者追悼式祭壇等設営業務委託料	58	58	■適切 □見直し余地あり
		戦没者追悼式献花及び祭壇盛花設置業務委託料	231	231	■適切 □見直し余地あり
		鎌倉市遺族会補助金	190	190	■適切 □見直し余地あり
					□適切 □見直し余地あり
					□適切 □見直し余地あり
					□適切 □見直し余地あり
					□適切 □見直し余地あり
					□適切 □見直し余地あり